

- 間仕切頭つなぎ桁 (まじきりあたまつなぎけた)

間仕切頭つなぎ桁について、特に荷重・構造等に問題がない、また間仕切壁受け等の桁として考えらるものとする。

間仕切頭つなぎ桁の寸法(断面)は柱寸法(断面)と同寸法が、それ以上とする。

- 燧梁 (ひうちばり)

2階床組(水平グループ)平面的には燧材を使用し、構造部の各仕口か所を三角形を多く形成するように心がけ、ボルト(コーチボルト)や金物を使用し十分に緊結し、横架材がいろいろな外力を受けても変形しなようにすることが大切である。

○燧梁の断面寸法は柱断面と同じか、ひとサイズ小さい位の断面寸法とするが、

○胴差、間仕切桁、中桁などの横架材に燧梁を架設する。架設する数量(本数)の目安として、2階床組構造によるが、床組面積(1間×1間を1坪と換算する)、1坪当り1本~1.2本を目やすとし、偶数本数とすること。

★1本拾いでは必ず1本の必要長さで数量を記入する事。

- ひうち板

2階吹き抜けか所などに装飾的に実用性で使用されている。

- 2階梁 (にかいばり)

2階床組(水平グループ)の横架材であり、基本的に軸組(垂直グループ)上下共柱等に関係なく、梁の成側に架設する部材がなく床荷重を受ける部材で、普通2階梁間隔を「1間」に架設する。使用する角根太(力根太)・根太及び床仕上材の寸法厚さ等によ2階梁天端を決めて(天端は荒削りして陸(ろく)を直して使用すること)施工(加工)すること。梁幅は側面(成)に欠ぎ込み等がないで、桁幅の一サイズ15mm(5分)小さくすることが多い。(取り違いが起りにくい。)

○なお特に、関西地方では2階梁の間隔を「.5間」に架設し小根太(1階根太と同じ寸法を使用)を使用する例が多い。----- 長年にわたって根太を使用せず厚い床板が使用されていた。

○2階梁の仕口はボルトや金物を使用し十分に緊結する。梁の成が240mm(8寸)以上の場合、上下2か所をボルトや金物にて緊結する。

- 根太掛 け (ねだがけ)

1階と同じく、床伏図で、往々にして根太掛けが図示されていないことが多い。

○根太受材(横架材)が「.5間」の場合は、1階根太掛けに準ずる。

○根太受材(横架材)が「1間」の場合は根太掛け・根太を欠ぎ込み(渡りあご)の加工をする。根太掛けの寸法は割根太寸法より一サイズ以上大きい木材とする。

- 根太 (ねだ) 角根太(力根太)

床組架設で2階梁・桁間隔に対し、2種類の架設工法がある。

○根太受材(横架材)が「.5間」の場合は、(小根太)1階根太に準ずる。